

《重点目標：自ら働きかける子どもの育成》

光りあふれる下妻小学校



むぎの子

筑後市立下妻小学校便り
令和5年12月12日号
文責 校長 亀崎美穂子



12月3日、下妻小公開の日。今年も「ふれあい しめ縄 感謝の会」を行いました。

第1部「感謝を伝えよう」では、田んぼのお世話をお願いしている太田黒様、見守り隊の方々や各行政区長の皆様、駐在所の金子様、学習サポーターの皆様、生活科や総合の学習でお世話になった訪問先の皆様などなど、日頃からお世話になっている方々をお招きし、精一杯の感謝を伝えました。

どのように気持ちを伝えるかは、下妻っ子会議でみんなで話し合いました。そこで決定した「呼びかけ」の内容は、各学年で更に考えました。子ども達がつくりあげた呼びかけを聴いていると、これほど多くの皆様に支えていただいているのだなあと、改めて実感しました。

また、子ども達から、更に絆を深めよりよい下妻になるように思いを込めて作成した「人権バッジ」をプレゼントし、みんなで胸に付けました。体育館中がひとつになったような気持ちになりました。

第2部「しめ縄を作ろう」では、行政区に分かれて親子でしめ縄を作りました。来賓の皆様も多く参加していただき、手際よく和気あいあいとした雰囲気の中で作業が進みました。

これらたくさんのお稲わらは、今年も一敷の松本繁男様よりご提供いただきました。それを、本校用務員の中嶋さんが、長い時間をかけ、ひとつ分ずつ綺麗に揃えてくださいました。お陰様で、今年も立派なしめ縄ができました。

感謝の会が終わって、地区委員の方々子ども達とで、一人暮らしの高齢者の方々にお餅を配っていただきました。ありがとうございました。



また、5年生は、総合的な学習「下妻のお米プロジェクト」の発信を行いました。プレゼンや下妻のお米アピール動画を作成し、それを体育館後方で上映しました。また、収穫したお米には、手作りレシピ集を付けて販売しました。ちょうどインフルエンザの流行と重なり欠席者が絶えない中で、まさに「協力」して準備を進めました。その甲斐あって、たくさんあったお米は、あっという間に完売しました。



6年生は、「地域の活性化のために自分達にできること」として、福祉バスチャリティーに続き、一人暮らしの高齢者の方に贈るしめ縄を作りました。日を改めて子ども達が作ったしめ縄は、14日に各ご家庭を訪問して配る予定です。



がんばり紹介



学校で取り組んだもののみ掲載しています。入賞する、しないにかかわらず、挑戦してみるって素晴らしいことですね。いろいろなことにチャレンジするうち、本当に大好きなことに出会えるかもしれません。これからもがんばってください。

<福岡県文集>

- ◎奨励賞 1年 下川 真嬉さん 2年 赤池 悠斗さん
4年 中村 美月さん 5年 赤池 莉心さん 6年 松崎 美空さん

<筑後市ジュニア美術展> 全学年

- ◎奨励賞 2年 井口 凜心さん
◎入選 2年 松崎 万優さん 4年 牛嶋 優芽乃さん

※サザンクスに作品が展示されています。

<サラダコンクール> 5年生

- ◎優秀賞 5年 赤池 莉心さん
◎優秀賞 5年 石丸 叶渉さん

<食品ロス標語> 6年生

- ◎最優秀賞 6年 亀山 はる乃さん
※作品がポスターになり掲示されています。

<平和に関する作文> 6年生

- ◎優秀作品 6年 松崎 美空さん

<平和を願うポスター> 5年生

- ◎入選 5年 赤池 莉心さん
◎佳作 5年 井口 彰太さん

※美空さんの作文と、莉心さんのポスターは、市のHPに掲載されています。

物々交かん
下妻小学校 六年 松崎 美空

みなさんは、欲しいものがあるときはどうしますか。お店やインターネットで現金や電子マネーがクレジットで買っていますよね。でも、お金の価値が低くなり、物と物を交かんして欲しい物を手に入れる、いわゆる「物々交かん」をしている時があったそうです。それが戦時中です。これは、私のお母さんのおばあちゃん、つまり私にとってはひいおばあちゃんからお母さんが子どものころに聞いた話だそうです。

ひいおばあちゃんの家は、農家でした。戦争中でも、少しのお米や野菜を作っていて、食べる物にはそれほど困らなかったそうです。ある日、一人の知らない女性がおばあちゃんの家にたずねてきて、

「私は大牟田から来ました。この着物と食べ物をかえていただけませんか。」

と、言われたそうです。大牟田も空しゅうがあり、町が大変な中、車も電車もないのに、三時間以上歩いておばあちゃんの家まで来たそうです。汗だくで、手も足もよごれていた女の人を見て、おばあちゃんが、

「大変でしたね。これを持っていってください。」と、少しのお米といもなどを着物と交かんしたそうです。女の人はなみだを流し、何度も何度も頭を下げてお礼を言って、帰って行きました。私たちは、ちよつとお腹が減ったなと思うと、すぐに食べ物が手に入ります。お腹いっぱいには、ご飯を残したり、好き嫌いをして食べ物を残したりします。

私は、ひいおばあちゃんの話を聞いて、今、当たり前前のことは、昔は当たり前じゃないんだと思いました。

戦争は、人の心が生み出します。初めは小さなけんから、そのうち世界中を巻き込む戦争へと発展します。戦争は絶対にだめです。私のひいおじいちゃんも戦争に行きました。今、私がかここに生きてるのは、命が繋がったからです。この命のつながりが途切れることがないような世界の平和を強くぞみます。